



贈られた教授の称号

水野執行本部長(岩沼市)がウダヤナ大教授 脳神経外科教授に就任 外国人で初めて

将道会・総合南東北病院(岩沼市)の水野順一理事長特別補佐監兼執行本部長が今春、イ



スアスティカ学長(右) から称号を贈られる水野本部長(中央)

ンドネシアのウダヤナ大学脳神経外科教授に就任しました。日本人が同大学の教授に就いたのは初めてです。ウダヤナ大学は1962年にインドネシア・バリ島南部のデンパサルに設立された最初の国立総合大学。文系・理系合わせて13学部あり約2万人の学生が在籍しています。特にバイオテクノロジーや医学、社会科学、観光化学などの分野に強く、同国では常に10〜15位にランクされ、日本の大学とも積極的に共同研究や交流を進めています。水野本部長は愛知医科大学

(1面からつづき)

ん・心臓病・脳卒中で大部分が動脈硬化に起因します。人が老いることは血管が老いることで高血圧や高脂血症、喫煙、糖尿病、肥満などが動脈硬化の危険因子。脳卒中の原因にもなり脳へ血液を送る血管が詰まる脳梗塞、脳の中で細い血管が破れる脳出血、脳の太い血管の一部・動脈瘤が破裂するクモ膜下出血があります。脳梗塞は増え、血栓が起きたらすぐに設備の整った指定病院でカテーテルによる血管内手術を受け、溶ける薬をやるのが治ります。治療は早いほど良く、2時間以内です。それを過ぎると難しい。病院選びも重要。脳卒中になると寝たきりが4割、8割が何らかの後遺症が残り、

うつ病の心配も出てきます。心臓疾患も同じで詰まります。狭心症は動脈硬化・攣縮などによって一時的な酸素不足状態になり、心筋梗塞は血栓などで冠動脈が完全に閉塞し、その先の心筋が壊死してしまいます。早く見つけ、カテーテルと注射で処置し、血液を再開通させれば治ります。時間との闘い。医師が揃っている施設も必須条件です。閉塞性動脈硬化症で足の血管が詰まった場合、冷感・しびれ感、間欠性跛行などがありますが、糖尿病の人は余り痛みなどを感じない。安静時疼痛や潰瘍など重症になる前に早く適切な治療をすると肢切断などしなくて済みます。認知症は脳細胞の老化現象で、代表的なのがアルツハイ

マーです。薬物療法や頭に溜まった血液を取り除くと治る例もあります。原因・病態は分かりつつあるが、根本的な治療法は確立していません。骨粗しょう症は骨がスカスカになりもろく、脚の付け根や背骨、手首などが骨折しやすくなります。特に女性に多いが、検診率は低い。高齢者の骨折は致命傷です。40歳代になつたら年に1度の受診が勧め。60歳過ぎたら骨粗しょう症の検診です。日本人は世界で最も長寿ですが、寿命を延ばすだけでいいのでしょうか。生きがいがあります。人生は長い。趣味や運動、食事、医療、安らぎなどで健康寿命を延ばし、人生を楽しんでください。

任が決定。去る3月9日に同大でクトウト・スアスティカ学長から水野本部長に教授就任の称号が贈られました。水野本部長は「大変名誉な勲章です。活動を支えていただいた渡邊一夫理事長、ウダヤナ大学脳神経外科のスリ・マリアワン教授のお陰と感謝しています。今後もアジアの脳神経外科発展のため南東北グループの一員として努力します」と抱負を語っています。

医学部卒で同大、藤田保健衛生大に勤務した後、平成20年に岩沼市の総合南東北病院長となり25年から現職。26年には第29回日本脊髄外科学会長の務めめました。医学研修留学生の「橋渡し」には積極的に愛知医科大在籍中からアジアや中近東の若手脳神経外科医などの受け入れ活動に尽力しています。受け入れ第1号のジョコルダ・マハデワ医師(インドネシア・ウダヤナ大脳神経外科)は、愛知医科大で1

年研修して帰国し、現在は助教授になっていそうです。その後もインドネシアからの留学希望者が相次ぎ、南東北グループに移ってからも岩沼市の総合南東北病院と川崎市の新百合ヶ丘総合病院で研修生受け入れを継続し、インドネシアの医療発展に尽くしてきました。